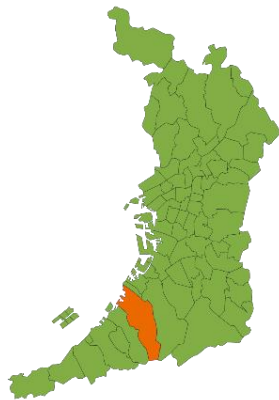


大阪府岸和田市

景観資源活用による景観意識の向上と 地域の賑わい・活性化への貢献



【地域の基礎データ】

人口： 194,911 人（平成 27 年 10 月 1 日現在）

高齢化率： 25.8%（平成 27 年 10 月 1 日現在）

産業： 繊維業、製造業、農業 など

【活動の基本情報】

参加学生数： 4 名（1 回生： 3 名、2 回生： 1 名）

活動期間： 令和 3 年 5 月～

担当教員： 堀田祐三子

1. 活動実施の経緯

岸和田市は大阪府下では、早くから景観行政に取り組み、歴史的な景観の保全や良好な景観形成を推進してきた。2012 年から実施している「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」では、市民が発掘した「景観資源」を審査して、「ここに残る景観資源」として指定することを通じて、市民の景観意識の啓発を進めている。本 LIP では、このプロジェクトで指定された景観資源について、市民の景観意識の向上を図ることに加え、地域の賑わいにつながる利活用方法を検討・提案することを目的としている。

2. 活動の内容

岸和田市の景観と観光に対する取り組みについての学び、観光資源および景観資源の現地視察、景観資源を結ぶルート案の作成を行った。ルート案についての議論において、景観資源に対して観光という観点からの再評価が必要であるとの認識を踏まえ、今年度の活動後半にその評価の方法の検討と、事前評価を行った。

3. 活動を通じて

初年度は、コロナ禍の影響もあり試行錯誤の活動であった。資源評価の材料と基準を整え、引き続き評価作業を進め、利活用策の検討につなげていく必要がある。SNS といったツールを利用した調査や、写真撮影および情報発信のセンスやスキルを活かして、資源利活用方策の可能性を追究していくことになろう。また利活用を考えるうえで景観資源と周辺の地域資源を結び付けていくことも今後の検討課題である。

プログラムを進めていくなかで、参加学生の景観をみる眼と景観資源に対する理解を向上させるとともに、地域へのコミットメントを高めることを期待したい。

4. 成果物（ポスター）



岸和田景観LIP

岸和田市の紹介

岸和田市は、大阪府南方に位置する海と山に囲まれた自然豊かなまちである。人口は約20万人。だんじり祭りが全国的な知名度を誇っており、歴史ある古い街並みが今なお残っている。






ここに残る景観資源
発掘プロジェクト

活動目的

○「ここに残る景観資源」を利用した周遊、鑑賞の仕組みづくり
つまり・・・
景観資源を利用し、
岸和田市を盛り上げていこう！

主な活動内容



6月

- 顔合わせ
- 現地視察&岸和田市役所へ訪問

9月

- 仮ルート案を各自作成し、市役所の方々にプレゼン発表&議論
- ルートの存在意義とは？

10月

- 景観資源の分析（岸和田市についての調査、フォトコンテストとの比較など）

12月

- 現地実習
- 景観資源の評価（アクセス、魅力度など）

見えてきた課題

- 景観資源の価値が弱く、観光地ほどの集客力がない
→どのように生かしていくか？
- プロジェクトへの応募数が少なく、市民の認知度が低い
→応募数を増やすための工夫を

来年に向けて

- SNSを利用した情報発信
- より市とLIPの繋がりを増やし、連携の取れた政策を

